

東京電機大学電機学校

創業・揺籃期				躍進・興隆期				発展・充実期				整備・戦中期			
明治40.9				大正5				昭和				24			
(1907) 私立 電機学校				10-12				大正15-4				24			
設置者 廣田精一・扇本眞吉				(加藤静夫)				(服部碩彦)				財団法人 電機学園			
(総務理事)→				(廣田精一)				(服部碩彦)				理事長 服部碩彦			
創立				大正3年 昼間部新設				大正9-3				昼間部廃止			
校長 扇本眞吉				大正5-4				大正9-3				19-3 20-7 21-4			
				加藤静夫				服部碩彦				田中登 服部碩彦 宇野幸一			

開校以来の経過と財団法人の設立 本校は明治40年9月11日、電気工学専門教授の夜学校として、神田区小川町1番地に開校す。

開校後1年を出ずして既に校舎の狭隘を告げ、41年4月、神田区錦町3丁目錦城商業学校々舎に移轉し、校勢漸く伸展したりしが、幾許もなく設立者扇本、廣田兩氏相亞いで二豎の冒す所となり、其發達を妨げられたること尠からざりしと雖も、工業界の活躍と、大方の援助及職員講師諸氏の熱誠とは、着々校運の發展を促し、兩氏亦病中校務と斷たず、劃策に努むる處あり。其後生徒數愈々増加し、大正元年10月、麹町區大手町商工中學校々舎(木造3階建221坪)を買受け、同年9月、木造3階建252坪の校舎を増築するに至れり。斯の如く、外に校勢張るに從ひ、内に校務の繁きを加へたりしを以て、校務を整理し、制度を確立し以て本校の基礎を永遠に鞏固にするの必要あり。乃ち大正5年4月11日文部大臣の許可を得て、本校を財団法人と爲すに至れり。

(昭2電機学校一覽より抜粋)

無難作の開校式 明治四十年九月十一日の夕、思ひ思ひの服装に身を固めた生徒たちが、帝都神田のある横町、門も柵もない簡素な校舎に登校した。定刻六時から開校式が擧げられた。可なり廣い式場には僅かに席を取設けたといふ名ばかり。やがて壇上に職員講師の面々が着席して儀容を正すと、瘦せた一人が立って挨拶を述べた。それが終ると、式場を白い幕で二つに仕切った。式場忽ち變じて教室となつたのである。その後、授業が九時までつづいた瘦せた一人は廣田であつた。廣田のこの挨拶こそ本校の放った呱呱の聲であり、この夜の授業こそ本校活動の第一歩であつた。これ等は、永く本校生徒の思出草となるべきものである。校舎は神田區小川町一番地正則英語学校分教場内の間借で、教室二つの外に事務室兼講師室と受付室の合計四室。職員はといふと、扇本と廣田の外事務員の堀長松がただ一人。かくもささやかな世帯ではあつたが、講師だけは立派な寶であつた。(電機学校二十五年史より抜粋)



第一回卒業式後の記念写真
明治41年8月創立当初の校舎



神田駅まで続いた
下校生徒の波



最初の自己所有の校舎 大正3



後援会が寄贈した水力発電実験所 大正11



中庭でのバスケットボール遊技 昭6.3.25撮影



取得した当初の錦町2丁目の校舎(第一校舎前面) 大正15.9.1撮影

発展・充実期				整備・戦中期			
5				10			
財団法人 電機学校				15			
(加藤静夫)				20			
電機学校(昼・夜)				24			
服部碩彦				24-3			



大正8年秋、卒業生一同の寄贈による校旗



徽章



帽章

鉄筋校舎1階の実験室
後の理事長 服部碩彦の設計



教育用模型を種々考案し、
展覧会等に出品し工業技術の普及を図る



第1期工事(左側鉄筋4階建)を完成した第1校舎(現本館) 昭5-12竣工



大震災後第3次増築の灰色校舎北側正面(右)



電機展 昭和初期

——電機学校の思い出——新田 次郎

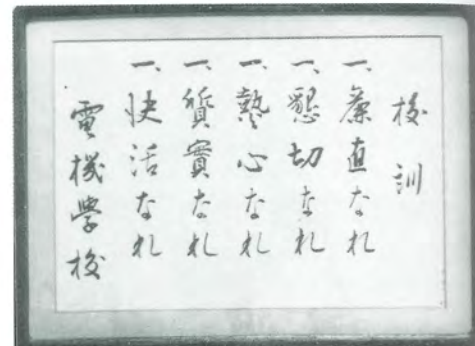
私がご厄介になったのは、現在の電気通信大学の前身で無線電信講習所というのがありまして、そこを卒業して、気象庁に入ったのが昭和7年の3月です。無線電信講習所というのは無線通信士の養成所ですから、1級の通信士の免許をもらって出てきたのですが、どうも強電にも少し強くなりたいと思ひまして、それでここにご厄介になったんです。7年の夏入って8,9,10年、まる3年、よく落第もせずに無事にきたんですが。入った時200人くらいで、大きな部屋がいっぱいで補助イスイを入れるくらいで、卒業する時は60何名。しかも私達中学を卒業して入った高等工業科の人達と、電機学校から積み上げてきた人達と一緒に60何名しか卒業出来なかった。大変厳しい勉強でして、できない人はどんどん落とすというものでした。(中略)

それから一番思い出があるのは実験です。河内校長に案内していただきまして、昔と変わってしまいましたが、この辺にシムスターがあつたとか、この辺にシリスターがあつたとか、話が出て非常に懐かしかった。地下室にバッテリーの部屋がありましたね。入ると硫酸の臭いがプーンとして。その思い出なんか懐かしかったですね。(昭10秋夜高工卒)

戦後復興期										環境整備充実期										拡充・変革期									
昭和24		25				30		35				40		45		50		55		60		平成元							
財団法人 電機学園		学校法人 電機学園		30.3				34.3				46.4				学校法人 東京電機大学				61.4									
21.6～ 理事長 服部碩彦（再掲）						丹羽保次郎				瀬藤象二						蓮見孝雄				廣川利男		平410							
		24.4		電機学校（夜）		31.2				31.5				41.4		46		48.4		49.4		東京電機大学 電機学校（夜）							
		池谷武雄				蓮見孝雄				清水 明				48.4		49.4		53.4		56.4		62.4							
														大原 備作		池田市寿		寺尾功吉		吉田宇一		片野義雄							
																						廃止							



夏期講習会を開き社会教育にも力を注いだ
中央 山崎講師、左 加藤校長、右 創立者廣田



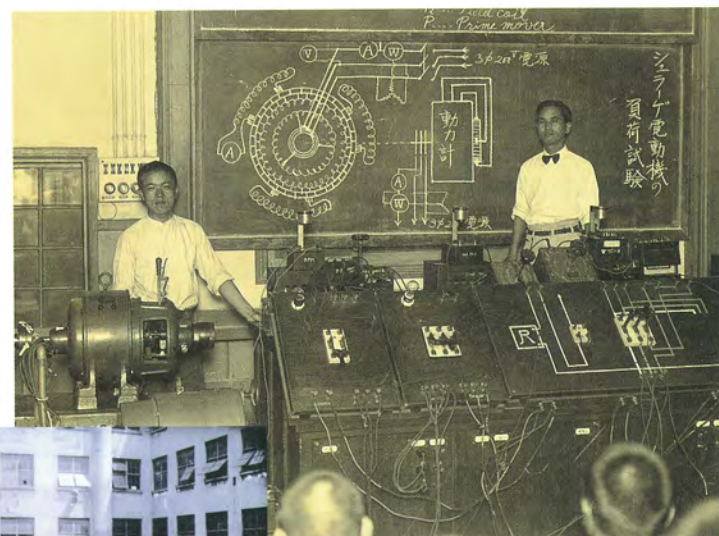
加藤静夫校長自筆の校訓
教室、実験室、事務室等に掲出



昭和12年完成の第一校舎 昭12.10.16



電気をやさしく解説した通俗「電気講演会」を開催 昭2.8.3



実演室にて 左 磯部、右 高田 昭15.8



戦時下、本館玄関前に整列した行軍班



軍事教練を受ける生徒たち（本館中庭）



第一校舎
飛行機よりの全景



第二校舎



父兄會代表より理事長に対する感謝状贈呈 昭22.11.24.



小石川校舎完成にともない、電機学校が移転 昭43



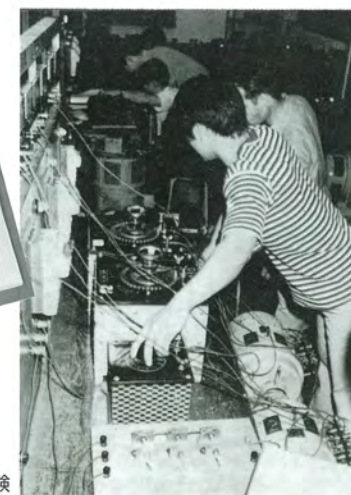
加藤 寛氏による特別記念講演風景 昭62.9.



電機学校発祥の地モニュメント
（神田キャンパス本館協の敷地内）



電気機械実験



電機学校最後の卒業式 平4.3.

東京電機大学中学校・高等学校

明40.9	昭14	15	20	25	30	35	40	45	50	53
14.4~24.3	19.4	21.11	23.4	24.4	31.2	35.4	41.4	46.5	49.4	53.3
東京電機工業学校（昼夜）	電機第一工業学校	電機第二工業学校	電機学園高等学校（昼・夜）	東京電機大学高等学校（昼・夜）						
校長 波多諄三	橋本健之助	池谷武雄	橋本健之助	宇野幸一	谷武雄	清水 明	望月直文	大原儀作	池田市寿	
	具志堅實成	電機第一・第二併設中学校	橋本健之助							
	21.4	22.4								

東京電機工業学校 昭和14年3月31日、実業学校令に準拠して設立認可・開設された。その後、昭和19年4月に同校は電機第一工業学校と改称し、同時に電機第二工業学校が設置されて二つの学校となった。昭和22年の6・3・3制度の施行に対応して、両校とも併設中学校を一時置くことになったが、第二工業は23年3月末、第一工業は24年3月末に最後の併設中学校卒業生を出して終結した。

電機学園高等学校 昭和23年4月の学制改革により、電機第一、同第二工業学校を併合して、電気科、機械科、普通科からなる新制の電機学園高等学校が設置されたので、これら二校は、昭和24年3月31日に発展的解消し廃校となった。昭和31年2月には法人名を東京電機大学に変更し、これに伴って、その名も**東京電機大学高等学校**と改め、昭和38年の教育課程の改訂に伴い、全日制に電子科、工業計測科、機械科、定時制に電子科を新設し、更に昭和40年4月に小石川の地に新校舎を建設移転した。その後、エレクトロニクス技術と高度情報社会の著しい進展に伴い、メカトロニクスの先端技術を有する電子機械技術者を必要とする社会的状況へと移り、これらに対応するために、機械技術と電子技術を一体化した電子機械科を昭和60年4月に新設し、既設の機械科を昭和62年に廃止して「普通科、電気科、電子科、電子機械科」の4学科体制となった。

平成4年4月、小金井キャンパス移転に伴う教育内容の改善検討により、工業科の既設3学科を再編成し、平成2年4月より電子電気科、情報科学科の2学科に改編し、現在に至っている。

中学校の再発足 過去に併設中学校を設置した実績を踏まえて、その後の高等学校をとりまく社会環境の変化と中高一貫教育を志向する時代的要請と相俟って、中学校設置を決定した。時あたかも平成5年5月、東京都が過去に中学校を廃止した法人が中学校を再開する場合の設置基準緩和に関する通達を告示した時期でもあった。平成6年12月に東京都に申請書類を提出し受理され、平成7年4月20日付で東京電機大学中学校設置が認可された。その結果、平成8年4月1日に新生中学校は順調にすべり出し、現在に至っている。



一工、高校の授業は第1校舎で行われた



二工の授業が行われた第2校舎



電機展（流線の測定）昭28



二工の授業風景 昭和21年頃



小石川校舎完成に伴い高等学校が移転 昭和40年



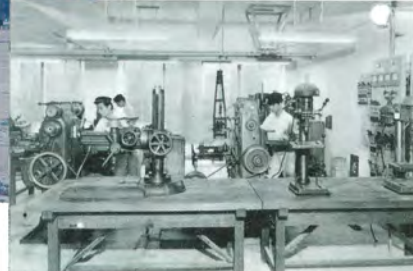
特別補習授業風景 昭43（数学）



ある授業風景 昭38



小金井グラウンド 昭和30年代



機械工作実習室 昭47



体育授業（於 体育館）昭44



アンモニアソーダ法の展示実験 昭48



剣道大会（神田キャンパス5号館体育館にて） 昭40

——将来への夢を—— 石川 明

高校時代の私は、あまり目立つ方ではなくて、真面目でおとなしい生徒でした。ただ声がよく通るので、何度も先生にニラめたりしました。でもあの頃のことは非常に印象深く、心から楽しかったなと思います。英語と幾何が得意でしたね。英会話など学校ではあまり盛んではなかったのに、英会話部を自分で作り出しました。いま思い起こすと当時の私にとって高校は「楽しい勉学の場」でした。

今の私にとっては「懐かしい学びの場」です。当時の友人とはビジネスの上でもいまだにつきあひが多いですし、昔話も常にできますし……

現在は半導体ICにおける事業—基礎研究から開発製造、販売などすべて—を世界中で展開する仕事をしていますので、米国を拠点としながら毎日地球を駆け廻っている感じが。そんな中で思うのは世界中どこへ行っても、みんな一生懸命働いて一生懸命生きようとしている姿は同じだということです。

みんながそれぞれに自分の人生、いいかえれば自分の夢を持っていて、そのために一生懸命努力している。私はTDU高校の皆さんにも、こうした「夢」を持ってほしいと思います。いわゆる「Future Dream（将来への夢）」をもって、あとで振り返ったときに“充実していたな”と心底思えるような高校生として思い出のある生活、小学、中学、高校、大学と、誰にもその年代にふさわしい「夢」があるはず。そしてその面では、生徒自身も学校も、高校生らしい生活とはいったい何なのだろうと一度考える必要があるかも知れません。

（昭31高校普通科、昭35大学IC卒）

昭49	50	55	60	平元	9
東京電機大学高等学校(昼)					
49.4	53.4	63.4	平6.4	9.4	
池田市寿(再掲)	吉田宇一	宮崎 登	松岡三夫	高久廣毅	
			H8.4→	東京電機大学中学校	
				松岡三夫 高久廣毅	



高等学校創立40周年記念式典 昭54.6



清里教育キャンピング 平3



文化講演会 講師 松平康隆
スポーツと国際感覚 昭59



創立60周年記念モニュメント：若人の像
河部貞夫画伯 制作



登校する生徒たち 平2
(小石川キャンパス)



体育祭(綱引き) 昭和59.6.9



↑↑電高祭 平元.9.22~23



電大高・アイオワ工科大学の協定書調印 平元



平成4年度 高等学校入学式(小金井キャンパス)



東北の旅 思い出の1コマ 平5



小金井キャンパス食堂にて 平5



中学校 理科実験 平8



計測実験風景 平7



小金井キャンパス 正面入口



平成9年度 中学校入学式



小金井キャンパス体育館
1階 平8



静かで環境抜群の図書館 平6



校庭よりの校舎全景 平4.2 竣工

—私のキャンパスライフ—内藤 寛

在学中からゲームソフトのプログラマーとして注目を集め、卒業後に手がけた『ドラクエ』シリーズは、ゲームソフトの限界ともいえる傑作で、爆発的大ヒットに。『Ⅲ』は300万本以上売れた。『Ⅳ』のチーフ・プログラマーを務めたあとは、独立して自分の会社を興し、ゲームソフトの開発に専念している。

どうして電子科を？好きなことは徹底してやらないと気がすまない性格だったので、コンピュータを勉強できる電子科を選びました。学校生活では、まわりがみんなパソコン大好きな少年ばかりだったので、日曜日学校へ行きたいくらい楽しかったですよ。なにしろクラス全員でコンピュータを使っていたずらばかり考えていましたから。この学校、変にツッパってる奴もいなくて、毎日が爆笑爆笑的な楽しい高校生活でした。

後輩へ一言。誰もが平均的っておもしろくないですね。自分の才能を発見して、それに徹底的にのめり込む。そんな生き方があってよいと思います。(昭60春高校D科卒)

東京電機大学(大学院工学研究科・工学部第一部・工学部第二部)

明治40.9	昭和14	15	20	25	30
電機学校創立	14.4	19.4	26.3		
	東京電機高等工業学校 (昼)		電機工業専門学校 (昼)		
	校長 服部碩彦		宇野幸一		
	21.4		24.4		
	IE・C		IE		
	学長		丹羽保次		
	工学部第一部長		27.4		
			工学部第二部長 宇野幸一		

東京電機高等工業学校 時の工業教育を重視する要請に応じて、昭和14年3月(1939)、同校設置が認可された。その後、昭和19年5月に電機工業専門学校と改称し、翌20年4月からは電気科のほかに、電気通信科を設けた。昭和24年、新学制の施行に伴う電機工業専門学校の大学への移行により、同校は昭和26年3月に第10回卒業式と閉校式が行われ、総計915名の卒業生を世に送り出してその使命を終えた。

東京電機大学の設置 昭和24年(1949)、電機工業専門学校を基盤として、電気工学科、電気通信工学科から構成される東京電機大学が開学した。初代学長にはエレクトロニクスの権威、丹羽保次郎が就任した。設置申請当初、「電機学園工業大学」であったが、実地視察の際電機工業専門を端的に表現する名称では如何との指摘があり、協議の結果「東京電機大学」に決定したという経緯がある。

第二部設置と学科増 勤労学生の教育を目的とした第二部設置は、昭和27年4月に修業年限4年制の工学部第二部(電気工学科)を設置した。その後、教育研究面での充実強化と教育施設設備の整備と相俟って、学科増設が行われた。即ち工学部第一部では電子工学科(昭35)、機械工学科・応用理化学科(昭36)、精密機械工学科・建築学科(昭37)が、また工学部第二部では電気通信工学科(昭36)、電子工学科・機械工学科(昭37)がそれぞれ順次学科増設が行われた。

大学院の開設 技術革新を推進する高級技術者・研究者の養成と再教育は米国の例に倣って、修士コースは夜間教育が望ましい、との丹羽理事長・学長の提唱を受けて、昭和33年4月(1958)理工系としては本邦はじめて定時制(夜間)の修士課程(電気工学専攻)を設置した。昭和37年に至り同専攻博士課程を開設、同50年には修士課程同専攻(昼間)を設置した。その後平成2年になって、久しく懸案の設置条件となっていた中心校地の基準をクリアすることができて、工学研究科に修士課程情報通信工学専攻・同電子工学専攻(平2)、機械システム工学専攻・同物質工学専攻(平3)をそれぞれ専攻増を行った。また博士課程では情報通信工学専攻・同電子工学専攻(平4)、機械システム工学専攻・同物質工学専攻(平5)、建築学専攻(平7)をそれぞれ設置した。



スポーツを楽しむ学生たち 昭25



通信工学実験(工専) 昭和25年頃



本館 昭12 竣工
工専、大学創設当初は
この校舎で授業が行われた



本館5階増築 昭31
増築後は、おもに5階・4階の一部を
使って大学の授業が行われた



本館正面入口



大学開学式、式辞を述べる初代学長丹羽保次郎 昭24.5



戦前・戦中・戦後にかけて昭和40年代
初頭まで、始業終業の時刻を知らせる
ために鳴り響いた鐘
今はひっそりと、かつて本館中庭であ
った場所に建つ11号館を暖かく見守っ
ている



武蔵野学生寮 昭28



5号館竣工(第2校舎跡地) 昭37.3



創立60周年記念事業として7号館完成 昭43.3



学部教育の特色化を狙って、昭和44年度から1年生の
小人数ゼミを開始した(写真はD科輪講風景) 昭45



平成2年まで、大学の体育実技や体育大会に使用されていた
小金井グラウンド、後方に小金井学生寮が見える 昭33.6

——学徒動員と空襲と——陣内 勝教——

私が入学させていただいたのは昭和19年ですから、丁度終戦の1年前ということで、皆さんご存知のことだと思いますけれど、非常に混沌とした時代で、段々戦争もたけなわになりまして、アメリカ軍のB-29が学校の上を飛び始めた時代でございます。われわれもたしかゲートルなんか巻いて登校したような記憶がございます。

そのときには、もう既に上級生に動員令が下りまして、ほうぼう動員に行かれて、われわれはまだ1年生だもんですから、まず1年間とにかく電気のことをやらなくちゃいけない、それで2年にいけば必ず動員に連れて行かれるだろうというお考えもあったんでございましょう。今でも記憶に残っているのは、屋上で朝礼をやらされまして、国旗掲揚後、裸になりまして体操なんかやらされました。その当時、服部校長先生、宇野先生、高田先生、みなさん裸になって体操をなさいました。

(昭22春工専卒)

49	50	55	60	平成元	5	10
50.4				H2.4	3.4	
修E(昼)	東京電機大学大学院 工学研究科	修C・D	修Mシ・B	博C	博A	
篠原正三(再掲)	54.4	58.4	62.4	63.3	8.4	
	岡村總吾	宮入庄太	井関昇	藤巻忠雄	窪田忠弘	荒井總明
	東京電機大学(昼・夜)	(工学部第一部・工学部第二部)				
49.4		57.4		H2.4		10.4
	阪本捷房	54.4	58.4	中野道夫	62.4	H3.4
篠原正三(再掲)		窪田忠弘	宮入庄太	藤巻忠雄		
廣瀬淳雄(再掲)	51.4~	中村欽雄	54.4~	窪田忠弘	54.10~	磯部直吉
			中村一郎	平野信夫		



神田キャンパス再整備計画の一環として、創立75周年記念事業の名の下に建設された11号館 昭59.6



工学部の中心校地不足の状況を解決し、工学研究科の強化充実と学部教育の特色化を推進するため、教育棟、体育館棟、学生厚生棟、国際交流センターから構成する千葉ニュータウンキャンパスの開発を行なった 平2.3



通学風景 千葉ニュータウンキャンパス（後方は教育棟）



学生相談風景（面接者は山田教授） 昭和40年代



父母懇談会、学科別懇談 昭53



錦祭、占いの館にて 平4.



大学院・学部・短大卒業式 平6.3.19.



ポリテクニク大学との学術交流協定締結 平7



卒業研究発表風景（A科） 平4



千葉ミニ学園祭、モデルロケットの製作 平4.10.



米国コロンバス大学での英語短期研修 平7.8



ワークショップ棟（千葉ニュータウンキャンパス）新築 平5.6



ソーラーカー走行テスト 東京ー鹿児島 平成7年10月



電気工学実験（神田キャンパス） 平7

——大学時代の幕あけ——丸山孝一郎
 大学ができて、すぐ自治会をつくらうということになったのですが、少人数の大学なので自治活動、文化、スポーツ部門を一体とした学友会という組織を作ったわけです。
 当時、有名な二・一ストが行われた前後で、全国的に学生自治会の活動が活発なときでした。本学ではみんな穏健な人たちが多かったので、全学連の誘いには応じませんでした。
 学友会組織を作ったとき、帽子の徽章の問題が起きました。それは大学で定めた徽章を角帽につけるには余りにも小さく、恥ずかしくて歩けないからもっと大きくして欲しいと、こわごとと服部理事長に申し入れたのです。だいが怒れましたが、今の徽章になったのです。といっても最近、角帽をかぶる学生を見かけなくなり今昔の感を深くします。
 それから大学の第一回卒業式での丹羽学長の卒業講演と、ご病気で杖をつきながらいらっしゃった服部先生のお姿が印象的で、思わず目頭が熱くなった記憶があります。
 （昭22春二工、昭25春工専、昭27春工IE卒）



東京理工系大学（本学、芝浦工大、武蔵工大）による学術・教育
交流協定を締結 平8.1



基礎教育棟（千葉ニュータウンキャンパス）
新築 平8.3



公開講座パンフレット



千葉平岡総合運動場の開発完了（航空写真） 平8
陸上競技場、野球場、テニスコート用地、クラブハウス等



千葉ニュータウンキャンパス（左から教育棟、学生厚生棟、体育館、基礎教育棟、サークル棟） 平9



平成9年度 入学式（於 武道館）

丹羽保次郎 — 人と業績 —

大正5年東京帝国大学卒業，通信省電気試験所，日本電気株式会社を経て，昭和24年本学初代学長に就任，爾来25年間の永きにわたって，「技術は人なり」：科学技術ほど人格に左右されるものではなく，従って技術者は何よりも人としての修養に徹さなければならない，との教育理念のもとに教育研究はもとより，大学運営の全般にわたって，時には理事長を兼務しながら，多大の貢献をなし，今日の学園発展の基礎を築かれた。

とくに在任中の大きな功績の一つとして，急速に進歩する科学技術に即応し，本学の建学の精神を具現化すべく，勤労青年の修学の便宜を最大限に配慮した，日本最初の工学系夜間大学院を創設したことが挙げられる。

本学園小史の表紙2ページに掲げたBenjamin Franklinの言葉は，毎年学窓を後にして社会に門出する卒業生諸君に対する「お別れの講義」の中で，座右の銘として引用された言葉であるが，奇しくもこの言葉は初代学長丹羽保次郎その人を表わしている。



丹羽学長の特別講義



開発した写真電送第一号機と丹羽保次郎
（日本電気の研究室で） 昭和3年頃



電大の研究室で指導
される丹羽博士
昭和34年頃



大学創立10周年記念祝賀会で挨拶する丹羽学長



文化勲章受章時



34年12母校の松阪第一小学校を
訪れ子どもたちに囲まれた丹羽さん



7号館ベランダにて学生たちと 昭44



丹羽先生ごろうさまでした（於 本学5号館） 昭49.6.15

東京電機大学（大学院理工学研究科・理工学部）

明治40.9	昭52	55	60	平元	5	10
電機学校創立		56.4	58.4	59.4	H2.4	
		修R・シ・G・N	博応シ	博R	東京電機大学大学院 理工学研究科	修J・F
			58.4		H3.4	5.4
		小泉磐夫	藤井澄二	61.4	櫻井 明	山本善之
52.4	研究科委員長→			JF	東京電機大学（理工学部）	H2.4
RKGN		57.4				
S49.4~	学長 阪本捷房		60.4	中野道夫	H元.4	5.4 岡村
	学部長 小泉磐夫		奥村敏恵	藤井澄二	前田明志	
						市野 学
						木下 彬

理工学部の開設 理工学部は、埼玉県比企郡鳩山町に昭和52年4月に、学園創立70周年記念事業の一環として開設された。

開設当初は数理学科、経営工学科、建設工学科、産業機械工学科の理学系1学科、工学系3学科、計4学科構成であった。

理工学研究科の設置 昭和56年、上記理工学部4学科に連結する形で、大学院理工学研究科修士課程数理学専攻、システム工学専攻、建設工学専攻、機械工学専攻が設置された。昭和58年には同研究科に博士後期課程応用システム工学専攻が設置され、翌昭和59年には同博士後期課程に数理学専攻が設置された。

理工学部の学科増設 昭和61年、理工学部は理学系の情報科学科と工学系の応用電子工学科が設置され、現在の6学科体制となった。

入学定員増 昭和62年、理工学部数理学科、経営工学科、建設工学科、産業機械工学科の4学科の入学定員が各80名から各100名に増員された。また、理工学研究科博士前期課程（修士課程）数理学専攻、システム工学専攻、機械工学専攻、建設工学専攻の入学定員を各8名から各12名に増員した。また、平成3年4月から平成12年3月までの間、文部省から18歳人口急増対策として、期間を付した入学定員の増加（臨時定員増）が認められた。内訳は、数理学科、経営工学科、建設工学科、産業機械工学科の入学定員が各100名から各110名に、情報科学科、応用電子工学科の入学定員が各80名から各100名の増員となった。

博士前期課程（修士課程）の専攻増 情報科学科と応用電子工学科に連結する形で平成2年から夫々情報科学専攻、応用電子工学専攻が設置された。なお、この2専攻の博士後期課程は、応用電子工学専攻については既設の応用システム工学専攻に、情報科学専攻については既設の数理学専攻を数理科学専攻に名称変更して設置された。

博士前期課程（修士課程）の入学定員増 平成8年、博士前期課程（修士課程）のうち、システム工学専攻と応用電子工学専攻の入学定員が各12名から各20名に増員された。

理工学部の学科名称変更 平成11年4月より次のように学科名称変更を行うこととなった。

数理学科	→	数理科学科
経営工学科	→	情報システム工学科
建設工学科	→	建設環境工学科
産業機械工学科	→	知能機械工学科
応用電子工学科	→	電子機械工学科

なお、情報科学科は学科名称変更を行わない。



理工学部開設並びに創立70周年記念式典
昭52.6.3. 於 鳩山キャンパス



鳩山キャンパス（開設時）



総合体育館 昭55.10 竣工



広大なグラウンドから校舎・実験棟を望む



理工学部設置認可書



6号館、8号館増築工事完了 昭60



学部開設当初の高坂駅 昭52



現在の高坂駅

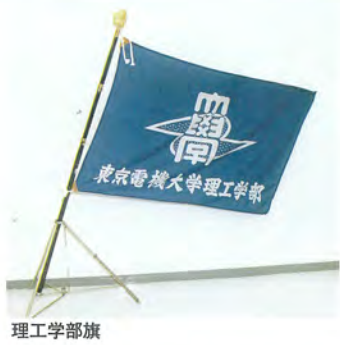


9号館完成披露式 平4

——理工学部での出会いと感動—— 志村 勉

高校の頃から建築デザインに興味があったので、まじめで就職にいいという高校の進路指導の先生の言葉で東京電機大学に決めました。今思えばとても幸運なことで、僕の人生はこの4年間で決定づけられたと言えます。高校から続けていたラグビーでは、チームメイトと創立間もない部の土台づくりを通して協力しあうことの大切さを、勉強と両立のなかで、継続することの素晴らしさ、強くなるための挑戦、忍耐、友情と実に多くのことを学びました。

そして、大学の図書館で手にした『世界の橋の写真集』の感動は今でも覚えています。こんなにも美しいものがあつたのか、力学的な美とデザインの美が融合する姿は強烈なインパクトがありました。橋梁の大家である奥村先生に直に教えていただいたのと、コンピュータ解析に詳しい松井先生との出会いが、今日の僕を作ったと言えます。研究面でも教育面でも熱意ある先生たちが、僕の夢の実現に全力で力を尽くしてくれたのだと思っています。（昭57理工G卒）



理工学部旗



毎年5月末に行われる合同体育祭



理工学部本館 (NEW MEDIA CENTER) 平7



TDU産学交流会と埼玉県商工部の共催による研究内容説明会



鳩山キャンパスでの初の修了式・卒業式 平9.3



大型高精細映像システムにより遠隔授業にも対応できるメディアルーム 平7



エントランスホール モニュメント「Cross of Rainbow」 坂上直哉 制作



プラザモニュメント「愛」 杉浦大介 制作



TDU産学交流会創立総会 平2
地元産業界との連携を目指して発足



フランス国立高等精密機械工学院との
学術協定調印式に臨む両校代表者 平3



韓国科学技術院長の訪問を受ける 平4



公開講座—親子で学ぶおもしろサイエンス 平8



250インチの超大型ハイビジョン映像システムが設置されている
PRESENTATION HALL



修士論文発表会より 平7



フランス人留学生との交歓会風景 平元



ある実験風景 (大学院) 平7



学部生、大学院生
合同のゼミ風景 平8



体育正課、部活にも利用されているテニスコート

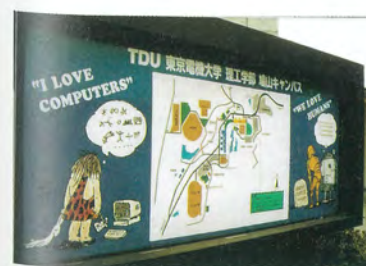


一階の談話コーナーで談笑する学生たち

——わが母校を語る—— 青柳秀和

小さな頃から理科が好きだった僕は、学校の先生の薦めで東京電機大学に進学しました。もともとSFが好きで科学的な話になるとのめり込み、その仕組みを知りたくなりました。大学では、話の合う先生に出会うことができ、趣味の話で盛り上がることもしばしばでした。まるで友達のように付き合ってもらい、飲みにも連れてってもらいました。

僕は学部・大学院とあわせて9年間を東京電機大学で過ごしましたが、その間、いろいろな年齢の方と接することができ、幅広い知識、奥深いものの考え方を自分のものとして築き上げることができたと思っています。現在は電気メーカーの半導体研究部門に勤めていますが、在学中に専攻して学んだことはもちろん、多くの人達との付き合いから得たものも、とても役に立っています。(平3工S, 平5院MF, 平8院D応以卒)



本館前キャンパス案内掲示板



鳩山キャンパス西側グラウンド完成 平9